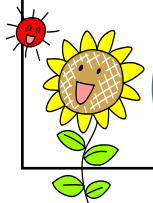




高野校だより

150th

舞鶴市立高野小学校
令和5年度 学校だより
第5号
令和5年7月20日発行

**校訓****至誠****進取****自治****協同**

〒624-0832 舞鶴市高野台1-1
Tel 0773-75-0768 Fax78-3050
HP <https://takano-maizuru.edumap.jp>

一人一人が成長を遂げた1学期

1年生の朝顔が7月4日に初めて咲き、その翌日からは競うように咲き始め、色とりどりの可憐な姿を見せています。2年生のミニトマトも次々と実り、鮮やかな彩りを見せています。また、7月6日にはセミが鳴き始め、夏本番を迎えることとなりました。

1学期の授業日数は、1～4年生は69日、5、6年生は70日でした。入学して新しい環境でのスタートをしたり、それぞれに進級したりした子どもたちはこの間、様々なことを一生懸命頑張り、頭を働かせ、エネルギーを使い、切磋琢磨して生活を送りました。日々の学習に加え、遠足、修学旅行、社会見学、野外活動、校区探検など校外での学習や体験などで学びを広げたり、話し合いや学びの発信などで自分の考えを深めたりすることができました。難しいことにも挑戦したり、粘り強く努力を重ねたりするなど、頑張った子どもたちに心から拍手を贈りたい気持ちでいっぱいです。

明日から夏休みが始まります。夏休み「これだけは頑張った。」と言えること、夏休みだからこそできることを見つけ、継続して、地道に取り組むことで必ず得られるものがあります。「継続は力なり」「塵（ちり）も積もれば山となる」「千里の道も一歩から」などの言葉がありますが、こういった古くから伝わる言葉には重みがあります。成果や成長、成功をつかむには、粘り強く、こつこつと努力を続けることが大切であるということが伝わってきます。しかし、大切であるということを頭では分かっている、続けるということはそんな簡単なことではありません。

「続けられる方法でやるのが大事である。」技術者であった原口證（あきら）さんの言葉です。原口さんはさらに「数々の続かなかった挑戦は方法が間違っていた。苦痛が伴うと続けることは難しい。向き・不向きがあるので、自分にとって続けやすい方法を見つけることが大切である。気合いや根性だけで乗り切ることができる人はいいが、多くの人はそう上手くいかない。続けやすい環境をつくると難易度はグッと下がる。」と語っておられます。

また、江戸時代の政治家であり学者でもあった新井白石には「一粒の米」というエピソードがあり、白石が子どもの頃、次のように父親から言われたそうです。「米びつから米を一粒取っても、一粒入っても量の変化は分からない。1日勉強したからといって利口になるわけでもない。1日怠けたからといって利口でなくなるわけでもない。しかし、1か月、半年、1年、2年と続けていれば必ず変化が見えてくる。」といった内容です。これは、夏休みの生活にもあてはまるのではないのでしょうか。

自分の好きな研究を毎日少しずつ続ける。1学期に習った漢字を3つずつ復習する。縄跳びを10分ずつ続ける。家の手伝いを決めて毎日続けるなど、自分が続けられそうなことを、自分に合った方法でなら継続は難しくないかもしれません。大きな目標を掲げることも大切ですが、小さなことを毎日続け、積み上げていくことで、「やりきった!」と達成感を味わったり、自信につながったりする夏休みにしてほしいと願っています。

一方で熱中症、水の事故や交通事故なども心配されます。かけがえない命を大切にすること、「夏休みのくらし」「高野小学校のきまりと約束」を守り、安全で楽しい夏休みを過ごすことができますよう、ご家庭や地域での温かい見守り、声かけをどうぞよろしくお願いいたします。

第2学期始業式には、ひとまわり成長した、元気な子どもたちに出会えることを楽しみにしています。本日1学期の終業式を迎えることができましたのは、保護者・地域の皆様の多大なるご理解とご支援・ご協力の賜物であると、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



元気なあいさつがひびきます。



誇らしげに咲く朝の素敵な顔



色鮮やか食べ頃のミニトマト



校長 材木 敏志 教職員一同